

サービス・システム名称	大分類 (いずれかを選択)
青森ソーシャル・キャピタル・サービス	<input checked="" type="checkbox"/> ライフ <input type="checkbox"/> ビジネス
小分類 (記入要領に従い、最大で5つまで選択可)	
<input type="checkbox"/> 安心・安全 <input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 食 <input type="checkbox"/> 教育 <input checked="" type="checkbox"/> 文化 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ <input type="checkbox"/> 見守り・介護 <input type="checkbox"/> 就労・労働 <input checked="" type="checkbox"/> 人材育成 <input type="checkbox"/> 電子認証・決済 <input checked="" type="checkbox"/> コンテンツ制作・流通 <input type="checkbox"/> 防災・災害対策 <input type="checkbox"/> 地理的情報格差解消 <input type="checkbox"/> アクセシビリティ <input type="checkbox"/> セキュリティ対策 <input type="checkbox"/> 交通・物流 <input type="checkbox"/> 業務効率化 <input type="checkbox"/> 生産性向上 <input checked="" type="checkbox"/> ポータルサービス <input type="checkbox"/> 行政サービス <input type="checkbox"/> その他()	
u-Japanの理念 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> ユビキタス <input type="checkbox"/> ユニバーサル <input type="checkbox"/> ユーザ <input type="checkbox"/> ユニーク
地域活性化への貢献、地球温暖化問題への対応 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域活性化 <input checked="" type="checkbox"/> 温暖化問題への対応
企業または団体名	
特定非営利活動法人 ソーシャル・キャピタル・サービス青森	
サービス・システムの概要	
<p>青森地域におけるUAA2007年度実証実験等による、市民、商店街、NPO、企業、自治体等の協力態勢と、SNSネットワークの構築及び運営ノウハウを活用し、地元情報等を発信・共有する仕組みを2008年4月に構築した。その後、青森市の掲げるコンパクトシティの形成促進において、まちづかい・まちそだての共通意識から「青森市地域ICTモデル事業」と連携。環境負荷低減、地域ポイントを連動させた取組みや、工業高校が推進するまちづくりの取組み、市民による商店コンテンツ等のロコミ情報や日記等、様々な活動情報を発信・共有するソーシャルキャピタルネットワークを構築した。2010年新幹線開通に伴い観光の観点から、青森県ユビキタス情報提供モデルシステムと連携し、画像認証等先端技術を付加。また、慶應義塾大学が中核となって進めている『コ・モビリティ社会の創成』事業とも連携し、新しい概念のネットワークサービスによる地域の活性化を目指す。</p>	
サービス・システムの狙い (利用想定層、開発・提供のきっかけ)	
<p>地域SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を開発することで、地元コンテンツ配信、インターネットでのコミュニティ活性化と、地元商店街の活性化を目的とし開発提供した。</p> <p>地域活性化に取り組む青森市と連携、先端技術で青森県と連携、地元商店街・大学・民間企業・NPO法人等の連携協力が得られたことで、コンテンツ増とユーザ増を見込み、ユーザにとってより有意義な情報提供により、地元地域の活性化と魅力作りを目指す。</p>	
サービス・システムの特徴・特記事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話で、看板等を撮影することによりピンポイントの店舗情報と周辺地図情報が得られる。 ・エコ活動を促進させる環境家計簿システムとの連携により、コミュニケーション促進と環境負荷低減が図れる。 ・情報発信・共有、エコ活動により貯まったポイントが、景品や体験プログラム等と交換出来る。 	
利活用の状況	
<p>提供地域 青森市 導入主体 NPO法人SCS青森</p> <p>提供開始年月日(開発中のものは予定時期) 2008年4月 (開発年月日) 2008年4月</p>	
定量的導入効果	
<p>開始当初のユーザ数350名から一年間で720名を超えた。お店コンテンツは200軒から430軒に増加。コミュニティ数は46件。総書き込み数は30,500件、総アクセス数は896,600件と、認知度も上がってきている。</p>	
定性的導入効果	
<ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携により、提供できる情報量と質が向上し、有益な情報配信ができた。 ・簡単操作で情報の共有・発信が可能となる先端技術導入とあわせ、市民活動のインセンティブとしたポイント交換資源(景品、イベント参加権、地域プログラム体験権、地域寄付)の財源が課題だったが、市民・企業からの協賛が増加しはじめ、低コストでの自立運営の可能性がみえてきた。 	
導入に当たって克服した課題 (苦労をした点・工夫)	
<p>ユーザの大半を30～40代前半が占め、若年層や高齢者層のユーザ増が課題。高齢者増についての課題は残るものの、中心商店街近隣の青森工業高校と「ぼくたちのまちプロジェクト」として、ものづくり・まちづくりの観点から取組み連携を図ることにより、若年層の参加が実現した。それにより、保護者の方々からのご理解を得られると共に親子での参加という効果も生まれた。</p>	
現状の課題、今後の展開など	
<p>ビジネスモデルとしての自律運営が課題。現在、新たな有料付加サービスを検討している。中心市街地の取組みで得たノウハウを元に、他地域、行政、学校等と連携展開することでサイトコンテンツ等の充実と、連携地域と協力し地域活性化に貢献できるサイト運営の展開をめざしている。</p>	
過去の表彰歴および表彰に関する報道等	
なし	
本件の問合せ先	<p>特定非営利活動法人 SCS青森</p> <p>副理事長 鐘 継雄 nico2@aomori-ubi.jp</p> <p>電話番号:017-741-2171(有限会社 forte 内)</p>